

現代スポーツを考える

— 主な球技の世界ランキング —

岡 部 修 一

奈良産業大学（現：奈良学園大学）情報学部

Essay on Contemporary sports : World Ranking of Major Ballgames

Shuichi Okabe

Faculty of Informatics, Nara Sangyo University (Present Nara Gakuen University)

サッカー、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールは、学校体育での経験や国内トップリーグの存在などから日本人にとって、なじみのある球技といえる。しかし、これらの球技は世界やアジアで苦戦を強いられ、上位進出どころか世界大会への出場権を逃すことも少なくない。2020年東京オリンピックでは開催国として出場権を得られるため、国民の間では活躍や上位進出への期待が高まると思われる。4年後のオリンピックで、球技の日本代表チームが世界の強豪国に対等以上の戦い挑むため、まずは現状把握の基礎資料として、主な球技の世界ランキングを調査した。

キーワード：球技、世界ランキング、2020東京オリンピック

1. はじめに

2016年8月、南アメリカ大陸初開催となる第31回夏季オリンピック大会が、ブラジルのリオデジャネイロで開催された。日本選手団は選手338名（男子174名、女子164名）、役員263名の計601名が派遣され、前回のロンドン大会を上回る金12、銀8、銅21、計41個のメダルを獲得した。

メダルを獲得したのはバドミントン女子、卓球男女、柔道、男女レスリング、体操男子、競泳およびシンクロナイズドスイミング（チーム、デュエット）、陸上の男子4×100mリレーと男子50km競歩、ウエイトリフティング、テニス、カヌーであったが、バドミントンと卓球のダブルスやシンクロナイズドスイミングのチーム、陸上男子4×100mリレー以外はすべて個人種目で、球技のメダル獲得は成らなかった。出場した球技のうち、前回大会で28年ぶり銅メダル獲得のバレーボール女子は準々決勝敗退、3大会ぶりに出場したバスケット女子はランキング上位国を倒すなど善戦したものの準々決勝で敗退、男子サッカー、女子ホッケー、男子水球、7人制ラグビー女子などはいずれも予選敗退に終わった。唯一、7人制ラグビー男子が格上の強豪国を次々と倒しての4位と健闘をみせた。球技の日本代表にとっ

て、やはり世界の壁は高く厚いといえる。

オリンピックで実施される球技種目の出場は12か国である。その決定方法は、球技ごとに多少の違いはあるが、開催国、各大陸予選による代表5～7か国、直近の世界選手権優勝国、そしてOQT（World Olympic Qualification Tournaments オリンピック世界最終予選）から数か国というのが一般的である。現状では日本が大陸予選やOQTを勝ち抜き12の出場枠に入るとするのはなかなか難しい。今回のリオデジャネイロ大会でも、ロンドン大会銀メダルのサッカー女子がアジア予選で敗退し出場権を逃した。1960～70年代にかけて世界トップの実力を誇ったバレーボールであるが、男子は2大会連続で出場を逃している。開催国枠として出場することになる次回東京大会では、いずれの球技も上位進出やメダル圏内トップ3をめざす強化が図られていくことになるが、その道は険しいと言わざるを得ない。

東京オリンピックで実施される球技のうち日本でよく知られた6種目の世界ランキングを調べ、それぞれの球技における現状や歴史的背景を考察した。

2. 世界ランキングの決定方法

世界ランキングは、それぞれの競技統括組織が、国際公式戦の成績をポイント化し制定する。ポイント化する対象の期間や試合の「重み（重要度）」、経年減少率などは、それぞれの球技により異なる。

ここでは大会の成績（順位）だけでポイントを算定するバレーボールと、大陸間での実力格差の係数を入れてポイントを算定するサッカーについて述べる。

バレーボールの世界ランキングは、FIVB（Federation International de Volleyball：世界バレーボール連盟）主催で4年ごとに開催する「世界選手権」「オリンピック」「ワールドカップ」、毎年開催する「ワールドグランプリ」「ワールドリーグ」、さらにFIVB傘下の各大陸連盟主催で2年ごと開催の「大陸選手権」が対象となり、それぞれの大会終了ごとに更新される。ランキング対象大会は重みづけによってポイント付与条件が異なっており、オリンピック、ワールドカップ、世界選手権の三大タイトルは1位100pt、2位90pt、3位80pt、4位70pt、毎年開催の男子ワールドリーグと女子ワールドグランプリは1位50pt、2位45pt、3位40pt、4位35pt、2年ごと開催の各大陸選手権は1位30pt、2位26pt、3位22pt、4位18ptが付与される。5位以下のポイントについては、順位決定戦実施やリーグ戦など明確に序列が定まる場合、順位ごとのポイントが付与され、順位決定せずに終了する場合は、同順位並列のポイント付与となる。

ポイントの有効期間は、オリンピックと世界選手権は4年間（1年経過ごと25%ずつ減少）、ワールドカップと大陸選手権は2年間（1年経過で50%減少）、オリンピックと世界選手権の各予選は4年間（1年経過ごと25%ずつ減少）となる。

一方、サッカーの算出方法は、2014 FIFAワールドカップ以後は、すべての国際Aマッチ（ナショナルチーム同士の対戦）において、勝ち3点、引き分け1点、負け0点、PK戦決着は勝ち2点、負け1点というものを基本点とする。これにその試合の格付係数となるW杯本大会4.0倍、大陸選手権本大会やコンフェデ杯3.0倍、大陸選手権予選やW杯予選2.5倍、国際親善試合1.0倍を掛け、さらに対戦相手

のランキング係数（1位は2.00 2位以下は $(200 - (\text{相手国のFIFAランク})) / 100$ の値 150位以下は0.50）も掛け、さらに対戦国の所属する大陸連盟の定数（南米サッカー連盟（CONMEBOL）1.0、欧州サッカー連盟（UEFA）0.99、アジアサッカー連盟（AFC）0.85、アフリカサッカー連盟（CAF）0.85、オセアニアサッカー連盟（OFC）0.85、北中米カリブ海サッカー連盟（CONCACAF）0.85）を元に、（対戦2国の定数の合計）/2を大陸連盟間の強さの関係を表す係数として掛ける。同大陸同士の対戦にも上記の定数をそのまま当てはめる。算出された値を元に、以下の基準で国際Aマッチにおけるポイントを求める。48ヶ月を12ヶ月ずつ4つに区切る。直近の12ヶ月ごとに、上記の国際Aマッチで獲得したポイントの合計を計算し、行った試合数で平均をとる。ただし、5試合以下だった場合は一律割る数は5とする。直近の12ヶ月ごと獲得したポイントの割合は100%、50%、30%、20%とする。得られた4つの平均値にこの割合を掛け、合算したものがランキングポイントとなる。

ただ世界ランキングは、各国の強さを数値上で示すもので一応の目安にはなるが、大陸間の格差や予選免除となる開催国枠の影響を受けるため、主観的な印象と異なることもある。

3. 6球技の世界ランキング

表1および表2は、主な球技男女の世界ランキングで、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールについては、リオデジャネイロオリンピック終了後に更新されたものである。

表1 男子球技の最新世界ランキング

	サッカー	バスケット	バレー	ハンド	ラグビー	野球
1	アルゼンチン	アメリカ	ブラジル	ドイツ	ニュージーランド	日本
2	ベルギー	スペイン	ポーランド	スウェーデン	イングランド	アメリカ
3	コロンビア	セルビア	アメリカ	デンマーク	南アフリカ	韓国
4	ドイツ	フランス	イタリア	ロシア	オーストラリア	チャイニーズタイペイ
5	チリ	リトアニア	ロシア	フランス	ウェールズ	キューバ
6	ポルトガル	アルゼンチン	アルゼンチン	セルビア	アイルランド	カナダ
7	フランス	ブラジル	イラン	スペイン	アルゼンチン	ベネズエラ
8	スペイン	トルコ	カナダ	ハンガリー	フランス	メキシコ
9	ブラジル	ロシア	フランス	ルーマニア	スコットランド	イタリア
10	イタリア	オーストラリア	セルビア	クロアチア	フィジー	オランダ
11	ウェールズ	クロアチア	ドイツ	ポーランド	ジョージア	プエルトリコ
12	ウルグアイ	スロベニア	エジプト	アイスランド	日本	ドミニカ
	49 日本	48 日本	14 日本	22 日本		

表2 女子球技の最新世界ランキング

	サッカー	バスケット	バレー	ハンド	ラグビー	野球	ソフトボール
1	アメリカ	アメリカ	中国	ドイツ	ニュージーランド	日本	日本
2	ドイツ	スペイン	アメリカ	ロシア	イングランド	アメリカ	アメリカ
3	フランス	フランス	セルビア	ハンガリー	フランス	オーストラリア	オーストラリア
4	カナダ	オーストラリア	ブラジル	ノルウェー	アイルランド	カナダ	カナダ
5	イングランド	チェコ	ロシア	ルーマニア	カナダ	ベネズエラ	チャイニーズタイペイ
6	スウェーデン	カナダ	日本	デンマーク	アメリカ	チャイニーズタイペイ	中国
7	オーストラリア	トルコ	オランダ	セルビア	オーストラリア	オランダ	オランダ
8	日本	ブラジル	イタリア	ポーランド	イタリア	キューバ	ニュージーランド
9	北朝鮮	セルビア	ドミニカ	フランス	スペイン	香港	イタリア
10	ブラジル	中国	韓国	韓国	ウェールズ	プエルトリコ	チェコ
11	ノルウェー	ロシア	アルゼンチン	オーストリア	サモア	韓国	プエルトリコ
12	オランダ	ベラルーシ	トルコ	チェコ	南アフリカ	イタリア	キューバ
		13 日本		13 日本	17 日本		

4. 考察

4.1 サッカーとハンドボール

男子のサッカーとハンドボールの上位12か国では、地域的な偏りが顕著である。ほとんどの競技団体では世界をヨーロッパ（ロシアを含む）、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、アジア（オセアニアを含む）の五大陸に分けて統轄している。世界ランキングにおける地域性の偏りという点で、サッカーがランキング12位圏内すべてをヨーロッパと南アメリカの国が占め、ハンドボール男子はすべてヨーロッパの国で占められている。

世界で最も人気の高いスポーツといわれるサッカーは、イングランドが発祥の地で、現在のヨーロッパにはプレミアリーグ（イングランド）、リーガ・エスパニョーラ（スペイン）、ブンデスリーガ（ドイツ）、セリエA（イタリア）という世界最高レベルのプロリーグが存在する。これら4つのプロリーグは世界中のプロサッカー選手たちのあこがれと目標であり、成功を収めれば莫大な収入と地位を得ることができるため、経済的に貧しい国に生まれた者にとっては、まさにヨーロッパンドリーム、サッカードリームなのである。オリンピックは世界の注目を集める総合スポーツ競技大会であるが、アメリカ、中国、ロシアなどスポーツ強化を国策と考える大国ならびにクラブスポーツの発達したヨーロッパの国々が有利であるといえる（表3）。しかしサッカーは、国の大小や経済力に関係なく、強豪国として君臨し、世界の栄冠と名誉を得る可能性が広がっている。経済的に豊かでなく国際的な影響力をもたないような中小国にとって、サッカーで勝利することは愛国心を喚起し、自尊心を満たし、何より大国

表3 夏季オリンピック国別メダル獲得数

開催年	2004	2008	2012	2016
開催都市	アテネ	北京	ロンドン	リオデジャネイロ
1位	アメリカ	中国	アメリカ	アメリカ
2位	中国	アメリカ	中国	イギリス
3位	ロシア	ロシア	イギリス	中国
4位	オーストラリア	イギリス	ロシア	ロシア
5位	日本	ドイツ	韓国	ドイツ
6位	ドイツ	オーストラリア	ドイツ	日本
7位	フランス	韓国	フランス	フランス
8位	イタリア	日本	イタリア	韓国
9位	韓国	イタリア	ハンガリー	イタリア
10位	イギリス	フランス	オーストラリア	オーストラリア
11位	キューバ	ウクライナ	日本	オランダ
12位	ウクライナ	オランダ	カザフスタン	ハンガリー

に対して溜飲を下げるができるのである。これがサッカーW杯がオリンピック以上に、世界の関心と注目を集める所以である。

イギリスからヨーロッパ各国に広まったサッカーが、歴史的に移民や文化交流が盛んだった南アメリカの国々に伝播し広まるのは早く、普及と定着という点で両大陸にはほとんど差がなかった。20世紀前半にはウルグアイが、オリンピック連覇や第1回W杯優勝など世界最強国として君臨しており、ヨーロッパと南アメリカの国々は、100年が経過した今なお、世界のサッカー界をリードし続けている。過去20回開催されたW杯で、決勝戦進出国はすべてヨーロッパと南アメリカの国で占められており、またベスト4進出国でもアメリカ、トルコ、韓国の一度ずつ進出以外は、すべてヨーロッパと南アメリカの国で占められている。

ハンドボールは19世紀の終わりに北ヨーロッパ（主にスカンジナビアとドイツ）で体系化され、初の国際試合は男子1925年、女子1930年に行われた。ドイツ発祥の競技ということで1936年のベルリンオリンピックで男子ハンドボールが実施された。継続種目となったのは男子1972年ミュンヘンオリンピック、女子1976年モントリオールオリンピックからであった。国際ハンドボール連盟は1946年に結成され、現在世界204の国と地域の連盟が所属しているが、人気の中心はヨーロッパで、世界でその牙城を崩すのは困難な状況といえる。男子の世界選手権大会では1938年の第1回大会以来、2015年第24回大会まで準決勝進出国（ベスト4）は、2015年大会準優勝カタールを除いては全てヨーロッパ諸国で占められている。女子でも世界選手権大会全22大会において、2003年の韓国3位と2013年のブラジル優勝以外は準決勝進出国すべてを、ヨーロッパで占められている。

サッカー男子とハンドボール男女の、他地域諸国の追従を許さない世界ランキングや世界大会上位進出国における地域的偏りは、特異な傾向である。

4.2 バスケットボールとバレーボール

一方バスケットボールとバレーボールにおいては、世界ランキング12位圏内に四大陸それぞれの国が含まれており、バレーボールの最新ランキングでは12位にアフリカ大陸のエジプトがランクインしている。サッカーやハンドボールと違い、オリンピックや世界選手権などの世界大会上位進出国の中に四大陸の複数の国が含まれており、強豪国の分布という点では世界への広がりがみられる。

バスケットボールは、1891年アメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールドにある国際YMCAトレーニング・スクールで体育教師ネイスミスが、冬季に体育館でプレーできる新しいボールゲームとして考案、YMCAを通じて世界各国へ伝播した。1932年に国際バスケットボール連盟（FIBA）が結成され、現在214の国・地域が加盟している。FIBAバスケットボール・ワールドカップは男子が1950年、女子が1953年から開催されている。オリンピックへは1904年セントルイス大会でデモンストレーションスポーツとして初開催後、1904年から1924年まで公開競技として実施され、1936年ベルリン大会から男子、1976年モントリオール大会から女子が正式種目に採用された。

男子では1950年の世界選手権大会開始当初から、アルゼンチン、アメリカ、ブラジル、ソ連、ユーゴスラビアと優勝国がめまぐるしく変わった。1953年から始まった女子では優勝国はソ連とアメリカの二強時代が40年にわたって続いたが、その間の決勝戦にはチリ、ブルガリア、チェコスロバキア、韓国、日本、ユーゴスラビアと多くの国が進出を果たしている。

バレーボールは1895年アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案され、YMCAを通じアメリカ全土、カナダやキューバなど周辺国へと伝播していった。その後、第一次世界大戦でヨーロッパ戦線へ派兵されたアメリカ軍兵士によって、フランス、イタリア、チェコスロバキア、ポーランド、ソ連などに伝わった。とくにソ連では1925年にロシア共産党中央委員会が『100万人のバレーボール』というスローガン掲げて、ソ連バレーボール協会を設立、国家政策の一環としてバレーボールの強化と発展に取り組んだ。これによってソ連は長く強豪国として君臨するだけでなく、東西冷戦の時代にチェコスロバキア、ブルガリア、ルーマニア、ポーランド、東ドイツなど東ヨーロッパ諸国へもバレーボール強化の影響を及ぼした。1949年に始まった男子世界選手権では21年間6大会にわたり、準決勝進出国はソ連と東ヨーロッパの国で占められた。1952年開始の女子世界選手権でも、当初はソ連と東ヨーロッパの国が君臨した。そして男女いずれもその牙城を崩したのは日本である。日本にバレーボールが紹介されたのは1913年、まずは9人制として発展したが1950年代後半に世界の流れを汲んで6人制を導入、ほどなく世界トップレベルへと駆け上がった。その後1980年代以降、男子はイタリア、キューバ、ブラジル、アメリカなど、女子はキューバ、中国、アメリカ、ブラジルなどの新たな勢力が強豪国に名を連ね、バレーボールの世界大会ではアフリカ大陸を除くすべての大陸から優勝国が現れる群雄割拠の状況を迎えている。

4.3 ラグビーと野球・ソフトボール

ラグビーはリオデジャネイロ大会で男女7人制が初めて実施された。7人制の世界ランキングは定められてないため、15人制のものである。ラグビーはイギリス発祥で、かつてのイギリス連邦国のオーストラリアやニュージーランド、さらにその近隣にあるメラネシアの島国、フィジー、トンガ、サモアで

も盛んになった。アルゼンチンや南アフリカはヨーロッパ、オセアニア以外の強豪国であるが、世界的な広がりという点では先の4つの球技より普及が進んでおらず、伝統的にラグビーを愛好してきた歴史の長い強豪国が、世界上位に強固に立ちはだかっている。

野球とソフトボールは、とくに野球は日本で非常にポピュラーかつ人気の競技であるが、世界地図を俯瞰的に見れば、発祥国であるアメリカを含む環太平洋地域で普及、発展しているに過ぎない。オリンピックではアメリカの意向を受け、何度も公開競技として実施されたのち1992バルセロナ大会から2008年北京大会までの5大会は正式種目として実施されたものの、2012ロンドン大会から除外された。2020年東京大会では開催地提案の追加種目として実施されるが、2024年大会以降は未定である。しかし強豪国が環太平洋諸国に限定され、他地域の国との実力差が違い過ぎる現状や、オリンピック種目の決定に際しては歴史的にヨーロッパの意向が重視される傾向があり、ヨーロッパでの認知度や人気の低い野球、ソフトボールをオリンピック開催種目として継続することは難しいといえる。

4.4 女子世界ランキング

日本代表の世界ランキングを見てみると、バレーボールは男子が14位、女子が6位、バスケットボールは男子が48位、女子が13位、ハンドボールは男子が22位、女子が12位と、球技の日本代表の世界ランキングはすべて女子が男子より上位となっている。女高男低となっている要因としては、世界の男子の球技にはそれぞれプロリーグがあり、頂点のリーグに属するビッグクラブめざしての熾烈な競争があり、必然的にパフォーマンスレベルも高くなる。

一方女子は、まだまだスポーツ環境が整っていない国もあり、たとえばイスラム圏の国では肌の露出を禁じる宗教上の戒律などから、女子スポーツ自体が嫌悪や敬遠される社会的概念などもある。このように女子では競技者数や強化を図る国の数が少なく、男子に比べると競争や実力レベルの層が薄いと考えられる。それでも世界8強以内の上位国による覇権争いは男子同様に熾烈で厳しく、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボールの女子日本代表はいずれも健闘しているといえよう。

5. まとめ

サッカー、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールといった日本人になじみ深い球技の世界ランキングからは、その競技の世界的な広がりや、強豪国の歴史的背景を垣間見ることができる。

ヨーロッパ発祥のサッカー、ハンドボール、ラグビーは長い歴史を経ても強豪国が一部地域の国に限定されている。一方アメリカ発祥のバスケットボール、バレーボールで、多くの地域の国に世界の覇権や上位進出の機会がもたらされている。同じアメリカ発祥の野球は世界的な普及は進んでおらず、環太平洋地域中心である。

女子は男子に比べ強豪国の数という点で層の薄さは否めないが、世界一をめぐる覇権争いは、男子同様に熾烈を極め、野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ハンドボールの女子日本代表は、世界ランキングでもトップ15圏内を維持している。

世界の中で苦戦が続く日本の球技は、まだまだメダル圏内のトップ3入りは容易ではないが、例えばオリンピック出場の12か国圏内をめざすことは、2020東京大会以後も現実的な目標といえる。

今後強化を図るうえで、その球技における強豪国の歴史的背景、育成システム、指導理論を研究し、たとえば強豪国へのコーチ留学や外国人指導者招聘など人事交流を活発化するなど、日本独自性にこだわらない強化策が必要である。

参考文献

- 岡部修一 (2011) 日本バレーボール界の変遷ー トップレベルのリーグ40年の変遷についてー. 奈良産業大学紀要. 第27集.
(2012) 世界バレーボール界トップ4の変遷. 奈良産業大学地域公共学総合研究所所報. 第2集.
- 小川 勝 (2013) 女子球技大国ニッポン。～世界で類を見ない高ランキング～. SportsGraphicNumberWeb
<http://number.bunshun.jp/articles/-/337690>
- 遠田寛生 (2016) ドーピングの深い闇. 朝日新聞デジタル.
<http://www.asahi.com/olympics/2016/special/doping/>
- 相沢光一 (2013) 主要団体球技・日本代表チームの実力は？ 世界ランキングでは女子が男子を上まわる. ダイヤモンドオンライン. <http://diamond.jp/articles/-/44655>
- Matthew Futterman (2014) W杯：欧州サッカーと南米サッカーの違い. THE WALL STREET JOURNAL
<http://jp.wsj.com/articles/SB10001424052702303861104579613511964997696>
- 日本バレーボール学会・編. NBP MOOK Volley pedia バレーペディア. 日本文化出版 2010.
- 国際サッカー連盟HP 男子ランキング. <http://www.fifa.com/fifa-world-ranking/index.html>
- 国際サッカー連盟HP 女子ランキング.
<http://www.fifa.com/fifa-world-ranking/ranking-table/women/index.html>
- 国際バスケットボール連盟HP 男子ランキング. <http://www.fiba.com/rankingmen>
- 国際バスケットボール連盟HP 女子ランキング. <http://www.fiba.com/rankingwomen>
- 国際バレーボール連盟HP 男子ランキング. http://www.fivb.org/en/volleyball/VB_Ranking_M_2016-08.asp.
- 国際バレーボール連盟HP 女子ランキング. http://www.fivb.org/en/volleyball/VB_Ranking_W_2016-08.asp.
- 国際バドミントン連盟HP ランキング. <http://www.ihf.info/en-us/thegame/rankingtable.aspx>.
- 世界野球ソフトボール連盟HP ランキング. <http://www.wbsc.org/ja/rankings/>.
- ワールドラグビーHP ランキング.
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%89%E3%83%A9%E3%82%B0%E3%83%93%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0>
- FIBA男子バスケットボール・ワールドカップ (FIBA Men's Basketball World Cup)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/FIBA%E3%83%90%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%9C%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%89%E3%82%AB%E3%83%83%E3%83%97>
FIBA女子バスケットボール・ワールドカップ (FIBA Women's Basketball World Cup)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/FIBA%E5%A5%B3%E5%AD%90%E3%83%90%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%9C%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%89%E3%82%AB%E3%83%83%E3%83%97>